

こんな利活用の方法もあります

【空き店舗を活用して】

明治の創業で地域に長く親しまれた和菓子屋が店じまいを決めたのは、平成30年1月頃。店を閉じた後は、アパート経営、土地を売って引越すなど、色々悩んだ末、「和菓子屋だった



▲平成30年に閉店した和菓子屋



▲歯科医院（店舗があった場所）



▲ワインバーに生まれ変わった車庫スペース

た部分を貸店舗にし、慣れ親しんだ自宅にそのまま住み続けることにした」と町の空き家総合相談室に相談があり、利活用について一緒に考えることになりました。町では、課題解決のための相談先の選定を行い、今回は県居住支援協議会に加入する町内事業者の方に相談しました。

元々が店舗兼住宅であったところを貸し出すとなると、水道や電気を分ける作業や、店舗で使っていたショーケースや長年の間に少しずつ増えた家財の処分など、店じまいと貸出しの準備にはたいへんな時間と労力が掛かったとのこと。

今回の利活用では、家族の意見が一致し、相談役になった町内事業者の方や地元の若い人たち、また、和菓子屋当時の取引先などの大勢の方々に助けられ、どうにか片付けができた感謝の言葉がありました。

駅近くの物件なので、早く借り手が見つかると思っていいましたが、町ホームページに掲載しても借主が見付かるまでは、意外に時間が掛かったのも事実です。店先に看板を出すなどの工夫もして、ようやく借主が見つかりました。

相談に乗っていただいた事業者の方や借主の方との出会い、そして、片づけを手伝っていただいた大勢の方とのつながりです。皆さんのおかげですと、大いに喜んでいました。現在は、元々店舗だったところに歯科医院、車庫があったところにワインバーができ、地域に憩いと安心を生んでいます。

【両親の家を貸家に】

ご両親が亡くなってから、定期的に樹木の管理などはしているもの、大磯から電車で2時間以上かかる距離であったため、頻繁に手入れに来るのは難しい状況でした。

将来は孫にあたる娘が大磯に住みたいと希望していたこともあり、当初から手放すことは考

えず、店舗などに改装し期間を区切った貸出しを検討されていました。

研究者であったお父様が残された大量の資料整理や、貸出しに向けて水回りや建具のリフォームを行うことについては、空き家に関する協定を締結する不動産事業者が相談に対応しました。

最終的に貸家にするのと、町ホームページ掲載直後に借主が見付かり、活用されています。

あなたも空き家の所有者になるかも！

自分の家が空き家になっても、「すぐに売れるだろう、貸せるだろう」、「処分できるだろう」と思っている方も多いと思います。しかし、いざ空き家になると様々な問題が発生し、手続きなどが思うように進まず、結局空き家を放置することになってしまふことも多いようです。

空き家は所有者だけの問題ではなく、近隣の方に迷惑を掛けてしまうこととなります。

空き家になってから考えるのではなく、空き家になる前から早めに準備しておくことが、空き家の解消につながります。

お困り事やお悩みがあれば、ぜひ「空き家総合相談室」へご相談ください。